

序

ウイルス感染症に関する研究は基礎医学が先行し、その発症機序や病理などを明らかにしてきた。これらの基礎的研究はさらに発展して臨床面にも及び、応用ウイルス学としてウイルス感染症の診断、治療、予防法を確立し、臨床の分野に大きく貢献した。そのためこれまでの臨床は基礎医学に追隨して研究が進められてきた。しかし現在は臨床もこの追隨から脱皮し、臨床ウイルス学として新たな展開をみせている。そして数多くの優れた研究業績が発表されるに至った。耳鼻咽喉科領域でも種々のウイルス感染症に対して臨床ウイルス学の立場から取り組んでいる施設もみられるようになってきた。

また最近、新しいウイルス感染症として AIDS（後天性免疫不全症）や ATL（成人T細胞白血病）が注目されるようになり、臨床ウイルス学にとって大きな課題となってきた。この新たな感染症は耳鼻咽喉科にも関連があり、また耳鼻咽喉科医にとっても医療従事者としての面からも大きな関心事である。

かかる現状に鑑み、本誌ではウイルス感染症を取り上げ特集を組むことにした。内容的には、まずウイルス学の基礎を理解していただき、さらに耳鼻咽喉科領域のウイルス症に対して適切な医療ができるよう企画した次第である。

本号ではウイルス学の基礎を現在第一線で活躍しておられる研究者に執筆を依頼し、ウイルス感染症の発症機序や病理、診断法などについて平易に解説していただいた。臨床では耳鼻咽喉科のウイルス感染症や関連の特定感染症を選び、豊富な経験をもっておられる先生方に症例を挙げて臨床ウイルス学の立場から分担執筆していただいた。ウイルスの治療に関しては抗ウイルス剤やワクチン、免疫グロブリンについてその開発の現況や将来の展望などを述べていただいた。内容的に基礎と臨床で少しく重複するところがあるが、現代ウイルス感染症の全貌を知っていただくよう編集したつもりである。

本特集号がウイルス感染症のガイド・ブックとして役立ち、実地臨床に活用されることを願ってやまない。

編集委員会